

家系図

山田真砂年

県知事の胸章ほどの薔薇咲けり

延台寺

涼しさの枝さしかけて遊女墓

鈴響く法虎堂より蟻這ひ来

竹夫人すこし湿りて朝迎へ

夏山のどかと真青のなかにかな

六道の渴ききはまり蟻地獄

蟬声を突き抜けてきて遠郭公

ブルーベリーほどの雨粒山の蟻

虎が雨触るれば熱き虎御石

虎御前の白き顔かんばせ五月闇

蒲の穂の未だ花殻を付けてをり

寢覚め良き朝に始まる夏休み

モンゴルの岩塩キラリ胡瓜食ふ

凌霄花の午後は小暗し山の家

蟬声に埋もれてゐたり留守居夫

金箔の残る如来も残暑かな

釣鐘人参下山の客の声高に

ひぐらしを遠くに飛天の堂昏し

鎌ザクと稲穂の重み手にありぬ

蒲の絮濛々として掌を溢る

空腹は元気な証 蚯蚯蚓鳴く

家系図に俵藤太地虫鳴く

梵鐘がまず暮れてゆき赤蜻蛉

とんぼうの飛び立つまでをそこに佇つ

彼の世とも霧がうとながれゆく